



個人⇨ 平和、広島自慢を調べる

原爆について、原爆慰霊碑、平和公園、味自慢、人自慢  
建物自慢、おみやげ自慢 など

### 第二次 9月4日「広島での交流」

○目的 広島を案内し、「原爆」のことについて語り合うことを通して、長崎大学附属小学校の6年生と交流を深めるとともに、平和について考える学習の場とする。

- 日程
- (1) ようこそ長崎大学附属小学校のみなさん
  - (2) 初めまして広島大学附属東雲小学校のみなさん
  - (3) グループ顔合わせ会、名刺交換と昼食
  - (4) 広島散策（グループ毎に） 広島城⇨平和公園
  - (5) 原爆資料館見学
  - (6) 長崎での再会を約束して

### 第三次 9月下旬～「長崎での交流に向けて」

○交流会の計画 ・全体でのあいさつ、平和宣言、献花について

○長崎について調べよう ・個人で平和（広島と長崎）、長崎について調べる。

原爆について、原爆慰霊碑、平和公園、味、みやげ、人物、建物  
など（インターネットの利用）

○手紙での案内 ・長崎での計画について班毎に連絡  
・長崎散策コースについて

### 第四次 10月13日 『長崎での交流』

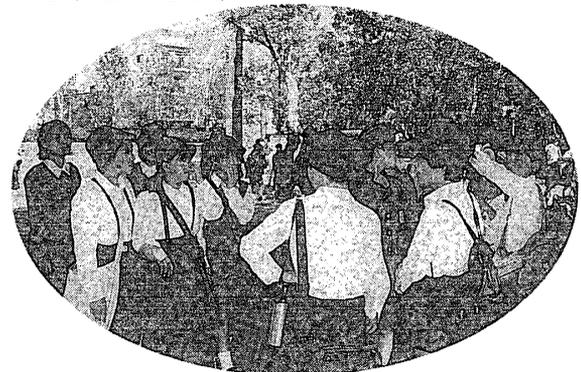
○目的 長崎大学附属小学校の6年生との交流を通して、その地域の文化に触れ、学校の枠を越えた豊かな人間関係を築く。

- 日程
- (1) ようこそ広島大学附属東雲小学校のみなさん
  - (2) また会えました長崎大学附属小学校のみなさん
  - (3) 平和宣言、献花
  - (4) グループ再会
  - (5) 長崎散策（グループ毎に）  
コース学習1（原爆資料館付近）、昼食、  
コース学習2（グラバー園、大浦天主堂付近）
  - (6) 今後の交流を楽しみに

① 再会のあいさつをし、平和宣言と慰霊碑に献花を。



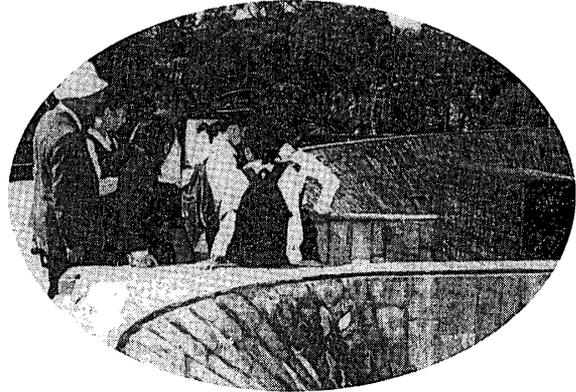
② 久しぶりの出会い。名前を覚えているかな？私たちのグループはどういうコースでまわるんだっけ？



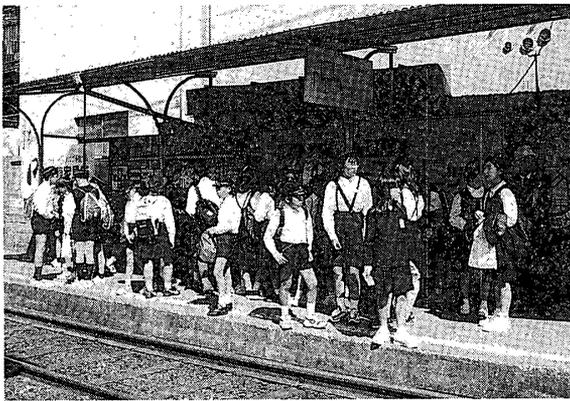
③ 2回目の会合だけど、私たちはもう仲  
良し！次は資料館へ。



④ 何が書かれているのかな？何を訴えよう  
としているのかな？



⑥ 市内電車で大浦天主堂へ。まちがいなく  
たどりつけるかな？ちょっと不安、電車は？



⑤ さあいよいよ、次は昼食。長崎名物「皿  
うどん」だ。



⑦ 大浦天主堂をバックに一休み。さす  
がに歩きすぎて疲れ気味？



⑧ グラバー邸にて。今日は一日楽しかった  
ね。また、いつか会えるといいね。



- ⑨ 「ありがとう」  
「さようなら」  
「元気でね」  
「また、きっと会えるよね」



#### 第五次 11月中旬「長崎大学附属小学校との交流を通して」

- 目的 2回の交流を通して学んだことを、自分なりの表現方法で長崎大学附属小学校の友達に伝えることに意欲を持って活動することができる。
- 調べたり、見学したりしたことを記録に残そう
- お気に入りの写真にコメントをつけて送ろう
- これからも交流を深め続けよう

#### — 千羽鶴に祈りを込めて —

- ・私たちは、千羽鶴をつくって送ります。昼休憩も大休憩もつぶしてやっこのことでできました。原爆にあったときの苦しみや悲しみが「ヒロシマとナガサキ」で共通しています。これからも後世に伝えられるように、しっかりと原爆のことを学びたいです。
- ・たくさん時間をかけて5人でつくった千羽鶴を見て思ったことは、長崎附小の人に広島への願いが伝わったらいいなということです。世界でただ2か所だけ原爆が落とされたヒロシマとナガサキが、今まで以上に平和を願うという点でつながればいいと思います。
- ・Kさんが「千羽鶴をおろう」と言った時、とてもいいアイデアだと思いました。戦争はもう二度としてはいけない。世界から「戦争」という言葉を消さなきゃと思っていたので大賛成でした。…。

#### 4 おわりに

広島で1度、長崎で1度、グループ毎に街を散策した子どもたちは、「教室だけでは授業とは全然味の違う楽しく夢のある時間にしよう」と第五次の時間に取り組んでいった。その中には、学校紹介のビデオ撮り・学校や自分たちの写真を撮ってコメントをつける・自分たちの思いを手紙に込めて送る・平和の祈りを込めて折り鶴と手紙を送る・今まで調べてきた広島や長崎のことについてさらにくわしく調べてまとめる…というように、それぞれのアイデアや思いを込めた活動が見られた。初めは、顔も知らない、声も聞いたことがない長崎の6年生との交流ということで、何をどうしようかという戸惑いも感じられたが、年間を通しての交流ということ、互いの修学旅行を利用して実際に会うということ、徐々に心もうちとけ相手を意識した活動が計画できるようになってきた。また、手紙のやりとりをしたり、年賀状を交わしたりと、学校を離れて個人的な交流に発展している子どももいる。

本実践は、修学旅行を活用し違う地域に生活する同学年の子どもたちとの交流を設定した。一連の活動を通して子どもたちは人と関わることのよさに気づき始めているのではないかと考える。今後も、人との関わりの中から自分を磨くことのできる子どもをめざして、時間と場の設定をしていきたい。